

<金標準、円安もピークを示し 9500 円へ・・・>



(出所：オアシス)

金標準先物は、米国のインフレ抑制に伴いFF レート誘導目標をFRBは2022年3月以降11回の利上げを実施し、金利高に伴い為替市場では114.79円から150.80円まで円安・ドル高の動きを続けている。そのため円建て金価格は2022年3月の7165円から一時は10028円まで高値を試している。しかし雇用統計で非農業部門就業者数が35.3万人増と大幅に上回り、消費者物価指数(CPI)でもコア部門前年比で3.9%に上昇し、生産者物価指数(PPI)も前月の-0.1%が+0.3%へ上昇するなど、早期の利下げ観測が後退しサマーズ元財務長官は「利上げの可能性もある」と述べている。特に金利を生まない金であり、金利引き下げを織り込み高値を保った価格であるだけに、高値を維持する事が難しくなった状況でないか。特に3月の春闘で賃金引き上げの確認を受けた日銀の出口戦略の傾く事を考慮すると為替市場の円安効果が一巡し、円安の恩恵が受けられない状況になると9771円を超える事は難しく、戻り売り基調が続くと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下げ渋っているが、シグナルは下げている。またRCIは短期が上昇し、長期は横ばいした動きを示している。特に10日移動平均線の伸びを欠き、日足が下回ると40日移動平均線に向けた下値追いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 2 月 19 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 2 月 19 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>